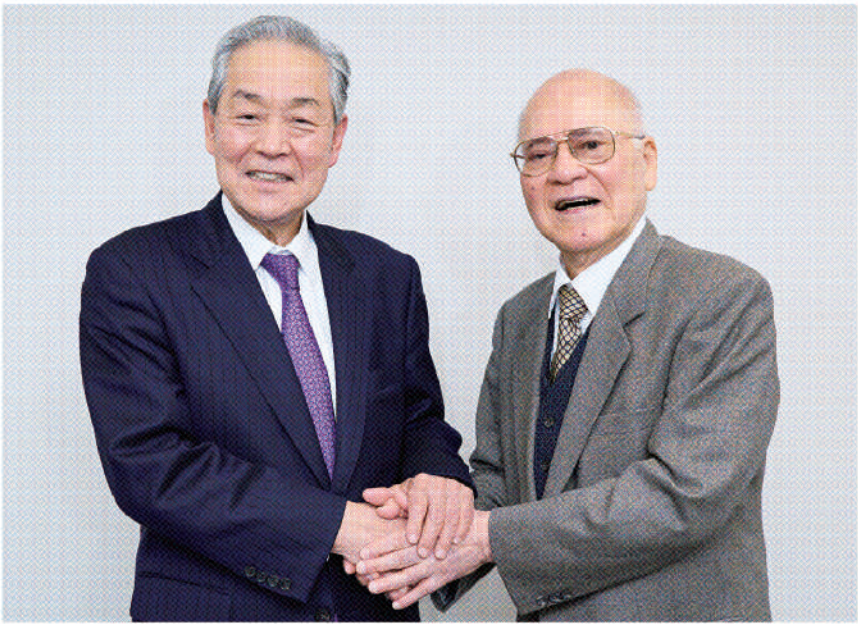


他社の物真似ではない独自製品で 省エネルギー化を実現

日本機械技術

会長対談



西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。

西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。



井水 治博 日刊工業新聞社 社長

西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。

井水 旭日双光章受賞、おめでとうございます。西藤会長は会社設立以来、たゆまず開発を続け、今では有力メーカーの工場などに軒並み送風機が採用されています。今日は経営の秘訣や開発の在り方などをお聞かせください。まず、西藤会長は1973年の創業にあたって、当時の西ドイツの送風機技術に感銘をうけたそうですね。

西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。

西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。



西藤 彰 会長

西藤 当時勤めていた送風機メーカーの技術視察で、71年に訪問した西ドイツは、日本に比べて桁違いに発展していました。

日本機械技術(東京都中央区)は産業用送風機の専門メーカー。今年で50周年を迎える。高性能、高品質、高効率によりエネルギーコストを1社当たり年間数百万円から数千円削減する。脱炭素化の潮流の中で、同社の持つ省エネ技術はますます重要性を増す。日刊工業新聞社の井水治博社長が、中小企業振興への貢献で今春に旭日双光章を授章した創業者の西藤彰会長に経営にかける思いを聞いた。

ランニングコスト重視で 環境問題・地球温暖化対策に貢献

社で40%、製紙工場でも20%もの電力が送風機電力として使われており、電気代(ランニングコスト)が送風機購入費(インシヤルコスト)の5-10倍になることもある。工場でのコスト削減、ひいては二酸化炭素(CO2)削減には、送風機の消費電力低減が絶対不可欠です。弊社は設計、製造する送風機は完全オーダーメイドの最適化設計で電力使用量を抑えることができ、発電時のCO2発生抑制に貢献します。ランニングコスト重視のメリットはコストだけでなく、環境問題・地球温暖化対策への即効性を有し、かつ具体的手法です。弊社の従業員にも「当社は電力削減を目的とした会社です」と宣言しています。お客さまには価格競争による「安値価格」ではなく、省エネ効果による利益を毎年産み出す「価値価格」で送風機を買っていただきます。

井水 創業50周年を迎えました。エネルギー高騰などで、御社にはチャンスになっているのでは。

西藤 現在のエネルギー高騰は、50年前のオイルショックを思い起す状況です。このような時代こそ、弊社のような「電力削減を目的とした会社」が全力で貢献すべきと考えています。そのためには今以上に生産性を向上し、より多くのご要望にお応えしなければなりません。日本社会全般で考えると、直近の30年を「失われた」30年と言うように、賃金水準は先進諸国に大きく水を開けられ、一人当たりGDPは韓国に抜かれました。日本の国力

送風機は、 省エネ対策の切り札になる。

日本機械技術株式会社はお陰様で50周年を迎えました。
私たちは『性能は高く、消費電力を少なく』を焦点に、
オーダーメイドによる設計・製造を行う産業用送風機専門メーカーです。
これからも省エネルギー化を実現する最高の技術と製品、サービスを提供します。

日本機械技術株式会社

<https://www.nkgfan.co.jp/>

〒103-0026

東京都中央区日本橋兜町21-7 HF日本橋兜町ビルディング

TEL 03-5614-7123 (代表)

